

日本文化人類学会植松東アジア研究基金研究促進事業

過去の採択課題

* 共同研究の場合、下線が代表者

>

2024 年度

申請者（所属）	研究課題	交付額
ケイ光大（慶應義塾大学博士後期課程）	仏教と近代イデオロギーの受容に関する人類学的研究:華南社会における釈教と香花派の比較から	120 万円
荒木真歩（神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程）	現代日本の民謡の女性歌手に関する音楽人類学的研究—東アジアの音楽とジェンダー研究への展開	116 万円
齋藤幸世（名古屋市立大学大学院人間文化研究科研究員）	現代台湾における言語政策と教育制度の変容：「バイリンガル政策」と「通行語」を中心に	120 万円

2023 年度

申請者（所属）	研究課題	交付額
城田愛（大分県立芸術文化短期大学国際総合学科准教授）	『沖縄とハワイを架橋するミグリチュード人類学：移民と先住民の踊りと唄の舞台から』（仮）の出版	120 万円
山本芳美（都留文科大学教授）	植松文庫の目録編成とデータベース化に向けた資料の整理と分析	110 万円
岡田紅理子（ノートルダム清心女子大学講師）	書籍『道をむすぶ 時をたがやす：台湾原住民族アミ・カトリック信者の近現代誌』（仮）の刊行	120 万円
包双月（東北大学助教）	『遊牧と農耕のはざまに生きる一定住モンゴル人の民族誌』の出版	120 万円

2022 年度

申請者（所属）	研究課題	交付額
喬旦加布（青海民族大学蔵学院）	書籍『中国青海省におけるチベット仏教復興運動下の民間信仰の変容』（仮）の刊行	120 万円
楊雪（東京大学）	帰還者と異郷者：福島原発事故後の被災地コミュニティ復興にかか る人類学的考察	100 万円
張詩雋（国立民族学博	芸術の価格—東アジア芸術市場におけるモノ、ヒト、カネ、価値	120 万円

物館)		
-----	--	--

2021 年度

申請者 (所属)	研究課題	交付額
加藤敦典 (京都産業大学)、井藤美由紀 (園田学園女子大学ほか非常勤講師)、上水流久彦 (県立広島大学准教授)、櫻田涼子 (育英短期大学准教授)、菅沼文乃 (南山大学非常勤研究員)、野上恵美 (神戸大学特命助教)	東アジアの高齢者の住まいと居場所—アタッチメントとディタッチメントの両面に注目して	100 万円
藤野陽平 (北海道大学)、遠藤協 (映画監督・民俗映像作家)、三尾裕子 (慶應義塾大学教授)、林庭瑠 (東北大学修士課程)	民族誌映画「軍服を着たカミサマ」の制作	120 万円
長坂康代 (敬和学園大学)	日本における在留ベトナム人の生活動態に関する人類学的研究—韓国と台湾との比較から	90 万円
川瀬由高 (江戸川大学)	書籍『「亀山島：漢人漁村社会の研究」を読む』(仮) の刊行	120 万円

2020 年度

申請者 (所属)	研究課題	交付額
上水流久彦 (県立広島大学教授)、尾崎孝宏、兼城糸絵、中村八重、藤野陽平、宮岡真生子	マスクと東アジア—新型コロナウイルス感染にみる東アジア社会の変容	120 万円
山本芳美 (都留文科大学教授)、久部良和子、植野弘子、宮岡真央子、石垣直	台湾・国立交通大学客家文化学院所蔵植松明石遺贈資料 (略称：植松文庫) の整理とデータベース化	120 万円
横田祥子 (滋賀県立大学准教授)	書籍『台湾の国際結婚—再生産領域グローバル化時代の男と女—』の出版	120 万円
北川真紀 (東京大学大学院博士課程)	現代日本の山間地域における猟師の「自然」経験—「豚熱 (CSF)」感染の防疫活動をめぐる映像制作と共有を通して	100 万円

2019 年度

申請者（所属）	研究課題	交付額
リーペレス・ファビオ （東北大学大学院文学 研究科助教）	『ストレンジャーの人類学（仮）』の出版	120万円
奈良雅史（国立民族学 博物館准教授）、藤野陽 平（北海道大学准教 授）、高尾賢一郎（中東 調査会研究員）、西川慧 （東北大学大学院博士 後期課程）	エスニシティと多文化共生をめぐる人類学的研究：台湾ムスリム・ コミュニティの事例から	120万円
石野隆美（立教大学観 光学研究科博士後期課 程）	フィリピンの訪日巡礼観光をめぐる〈法的身分〉と〈身体〉の人類 学的研究	95万円

2025年2月現在